

# 第46回 県政に関する世論調査の結果について

平成26年1月17日  
千葉県総合企画部報道広報課  
電話：043-223-2247

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は本年度1回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康、子育てと福祉、観光、千葉県の農林水産物、防災に関する取り組み、地方分権、広報・広聴活動について県民の意識調査及び「県政への要望」についての調査を行いました。

## 1 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法  
層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。
- (4) 調査方法 郵送法(郵送配付 - 郵送回収)
- (5) 調査時期 平成25年8月14日～9月2日

## 2 回収結果

有効回収数(率) 1,556(51.87%)

## 3 調査の項目

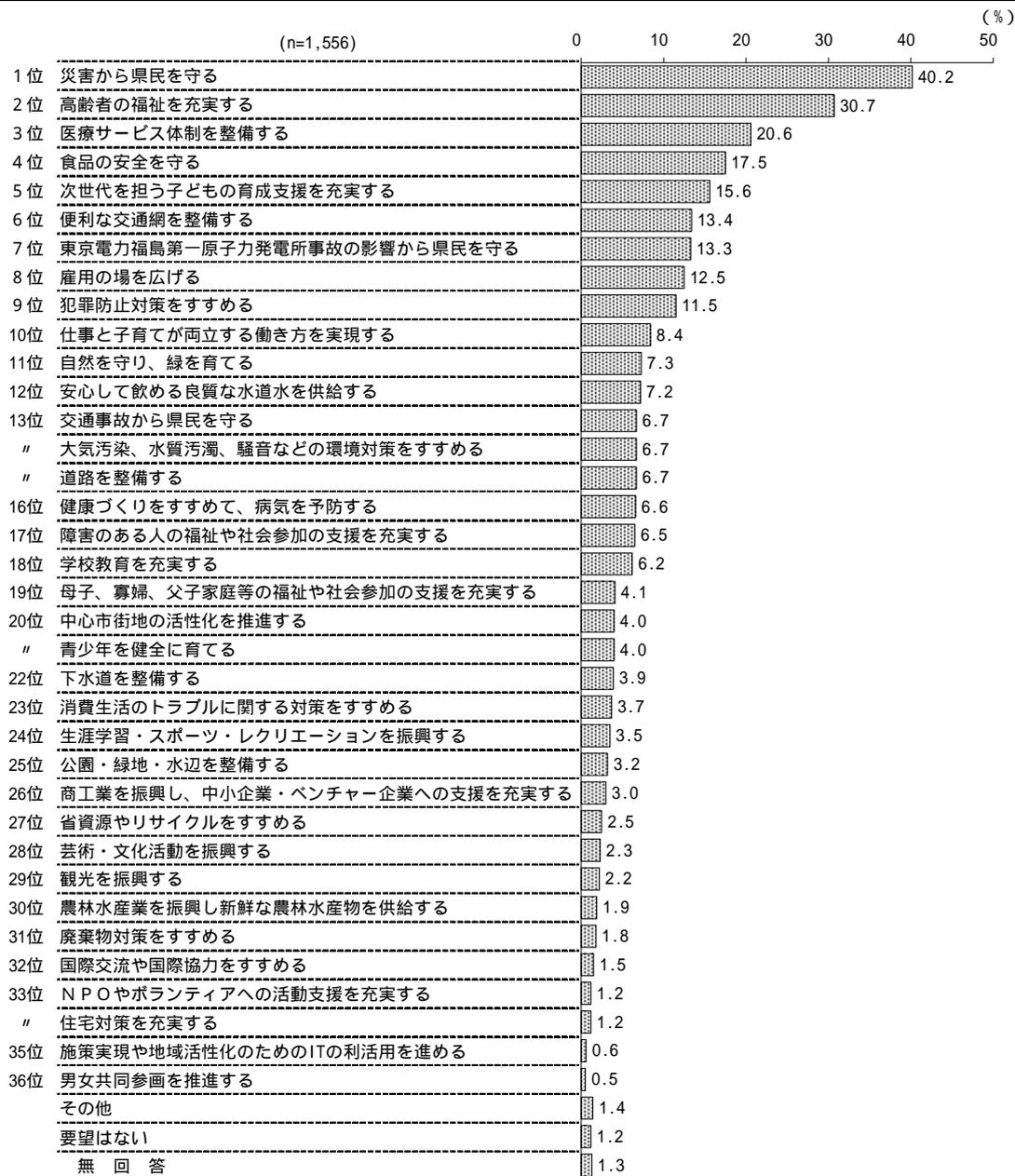
- (1) 県民意識調査
  - 環境と生活について
  - 健康について
  - 子育てと福祉について
  - 観光について
  - 千葉県の農林水産物について
  - 防災に関する取り組みについて
  - 地方分権について
  - 広報・広聴活動について
- (2) 県政への要望

## 4 調査の結果

### 1 県政への要望

#### (1) 県政への要望

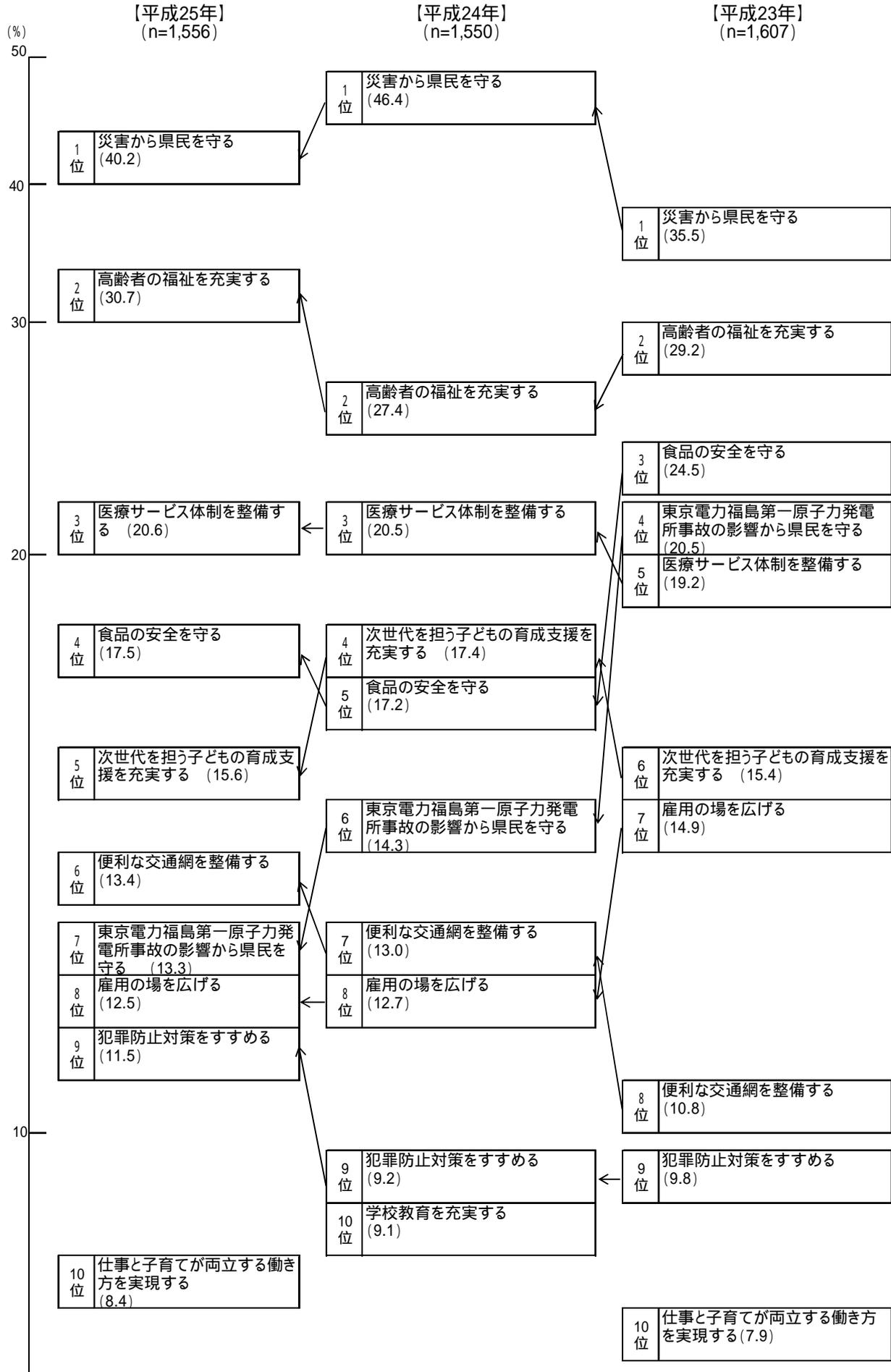
(複数回答：3つまで)



#### 今回調査の主な特徴

1. 「災害から県民を守る」は24年度（46.4%）に引き続き第1位（40.2%）となったが、6.2ポイント減少している。
2. 「高齢者の福祉を充実する」は24年度（27.4%）に引き続き第2位（30.7%）となっている。
3. 「医療サービス体制を整備する」は24年度（20.5%）に引き続き第3位（20.6%）、「食品の安全を守る」は24年度の5位（17.2%）から第4位（17.5%）へ順位を上げている。
4. 「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」は24年度の4位（17.4%）から第5位（15.6%）へと順位を下げている。
5. 「便利な交通網を整備する」は24年度の第7位（13.0%）から第6位（13.4%）へと順位を上げている。

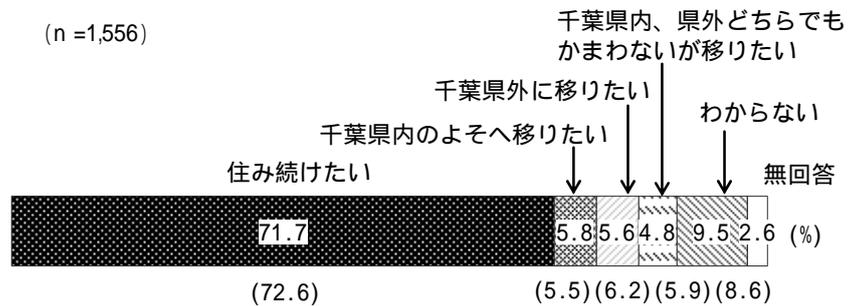
県政への要望 / 上位 10 項目の推移



## 2 環境と生活について

### (1) 今後の居住意向

現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(71.7%)は7割を超えている。一方、「千葉県外に移りたい」は5.6%となっている。また、「住み続けたい」と「千葉県内のよそへ移りたい」(5.8%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい』(77.5%)は約8割となっている。

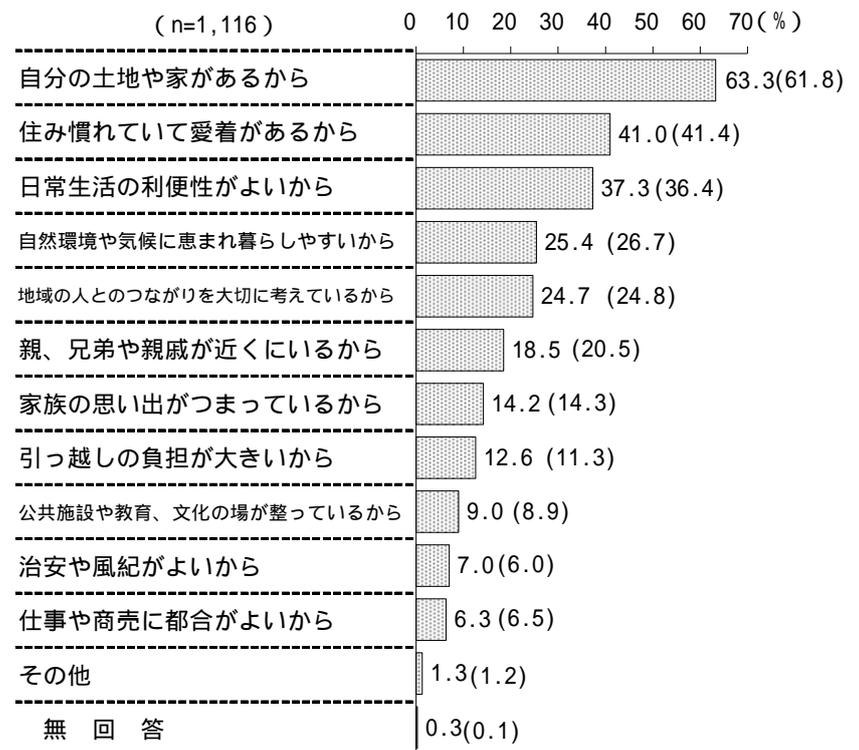


注) ( ) 書きは、平成24年度の調査結果を示している。

#### (1-1) 住み続けたい理由

(複数回答：3つまで)

「住み続けたい」と回答した1,116人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(63.3%)が6割台半ばと最も多く、以下、「住み慣れていて愛着があるから」(41.0%)、「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性がよいから」(37.3%)が続く。

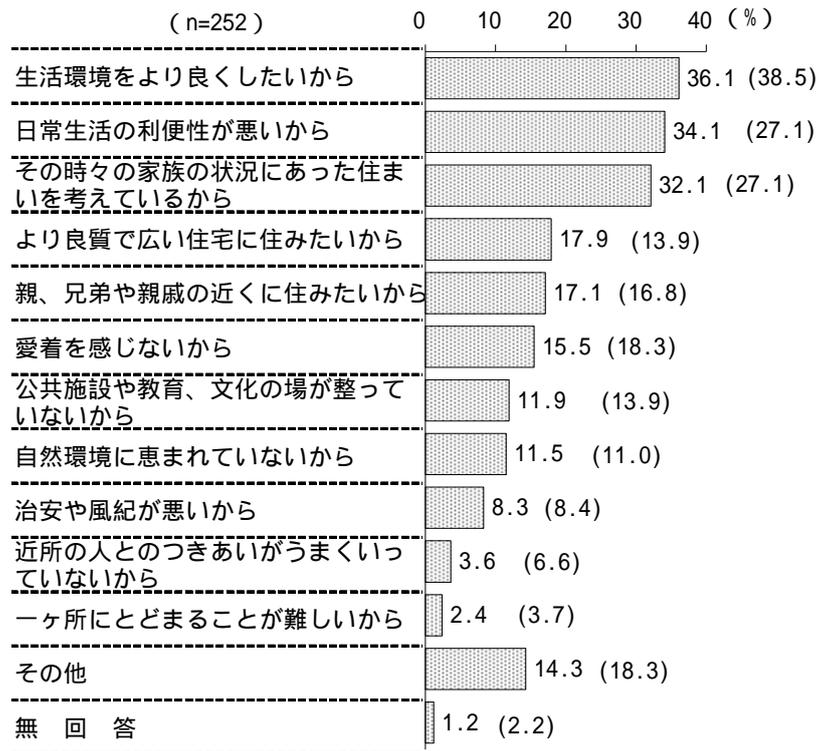


注) ( ) 書きは、平成24年度の調査結果を示している。

( 1 - 2 ) 移りたい理由

( 複数回答 : 3 つまで )

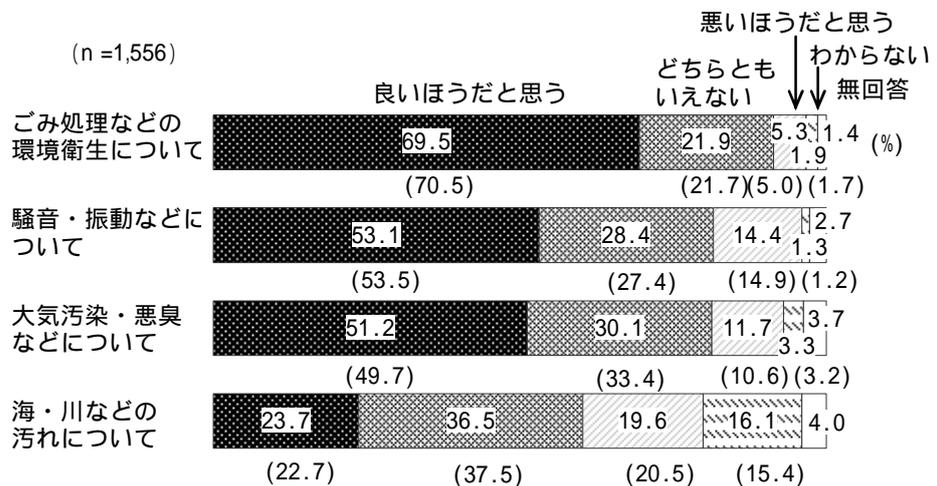
「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した252人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「生活環境をより良くしたいから」(36.1%)が3割台半ばと最も高く、以下、「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性が悪いから」(34.1%)「その時々家族の状況にあった住まいを考えているから」(32.1%)が続く。



注) ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

( 2 ) 生活環境について

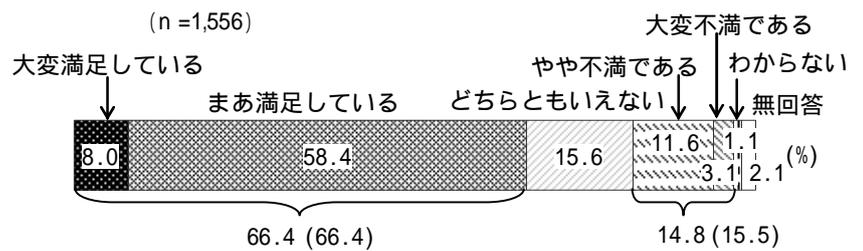
生活環境に関する4つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、ごみ処理などの環境衛生について(69.5%)で約7割となっている。以下、騒音・振動などについて(53.1%)が5割台半ば、大気汚染・悪臭などについて(51.2%)が5割を超えている。一方、海・川などの汚れについては、「良いほうだと思う」(23.7%)と「悪いほうだと思う」(19.6%)の差は大きくない。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

### (3) 生活環境全般の満足度

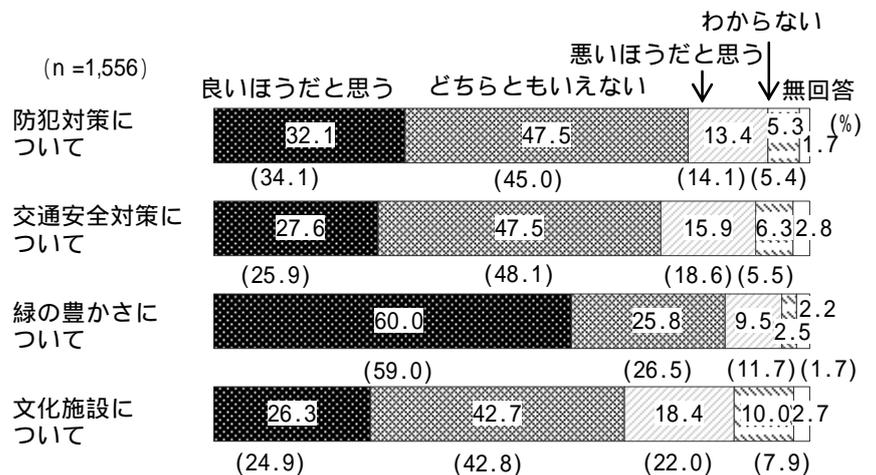
生活環境全般に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(8.0%)と「まあ満足している」(58.4%)を合わせた『満足している』(66.4%)は6割台半ばとなっている。一方、「やや不満である」(11.6%)と「大変不満である」(3.1%)を合わせた『不満である』(14.8%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成24年度の調査結果を示している。

### (4) 周辺・自然環境について

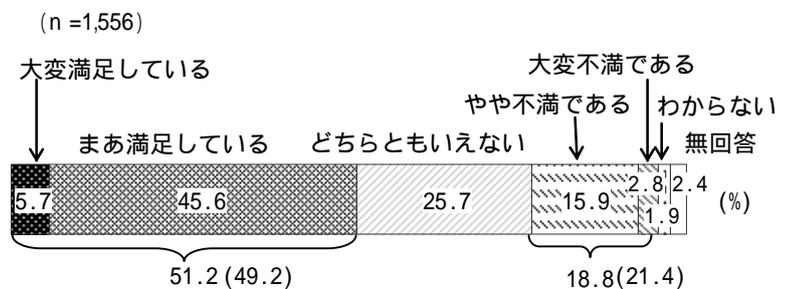
周辺・自然環境に関する4つの項目についてそれぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは緑の豊かさについて(60.0%)が6割となっており、以下、防犯対策について(32.1%)、交通安全対策について(27.6%)、文化施設について(26.3%)が続く。



注) 下段の ( ) 書きは、平成24年度の調査結果を示している。

### (5) 周辺・自然環境全般の満足度

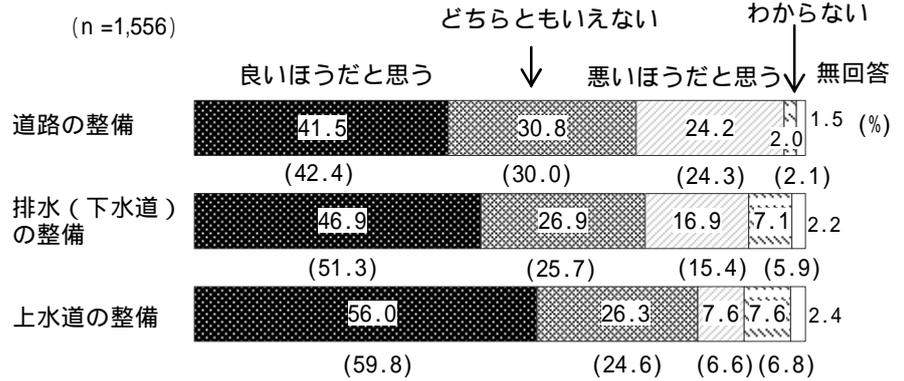
周辺・自然環境に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(5.7%)と「まあ満足している」(45.6%)を合わせた『満足している』(51.2%)は5割を超えている。一方、「やや不満である」(15.9%)と「大変不満である」(2.8%)を合わせた『不満である』(18.8%)は約2割となっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成24年度の調査結果を示している。

## (6) 基盤整備について

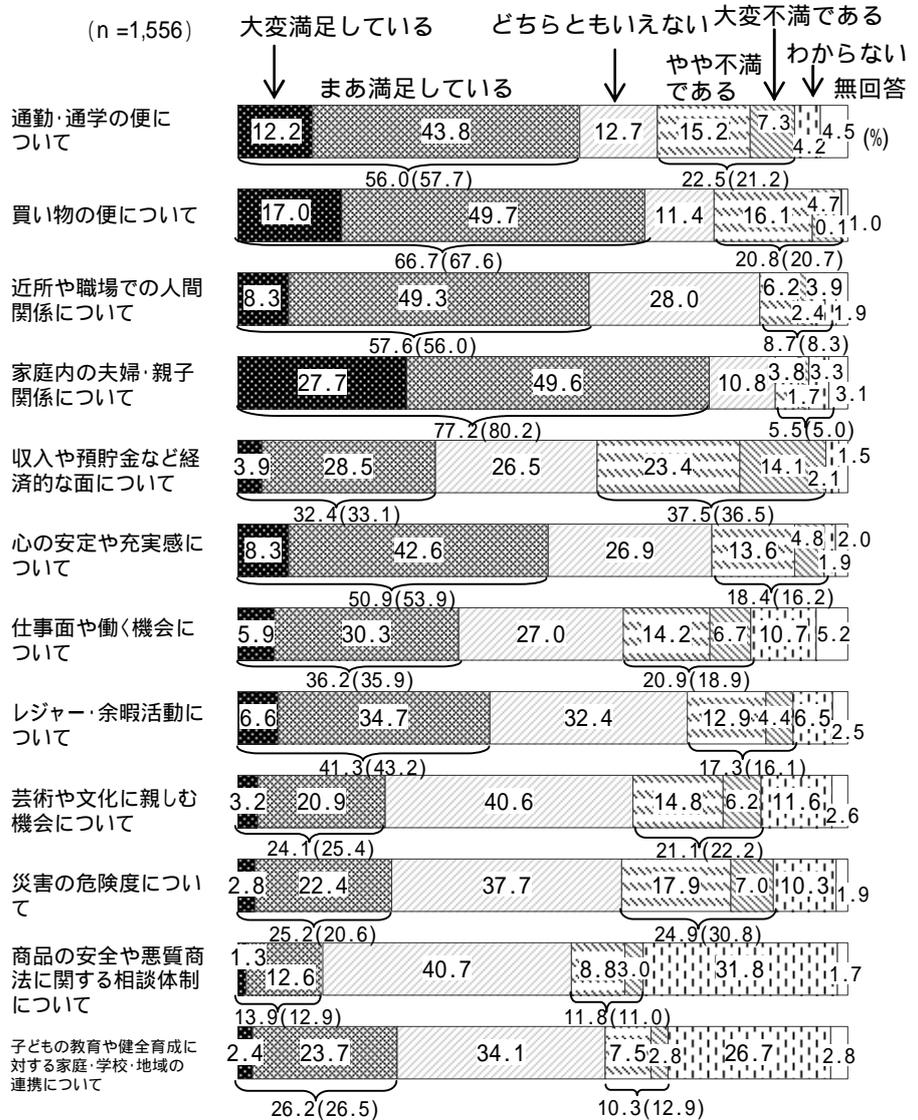
基盤整備に関する3つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、上水道の整備（56.0%）で5割台半ばとなっている。次いで、排水（下水道）の整備（46.9%）が4割台半ば、道路の整備（41.5%）が4割を超えている。



注) 下段の( )書きは、平成24年度の調査結果を示している。

## (7) 現在の生活の満足度

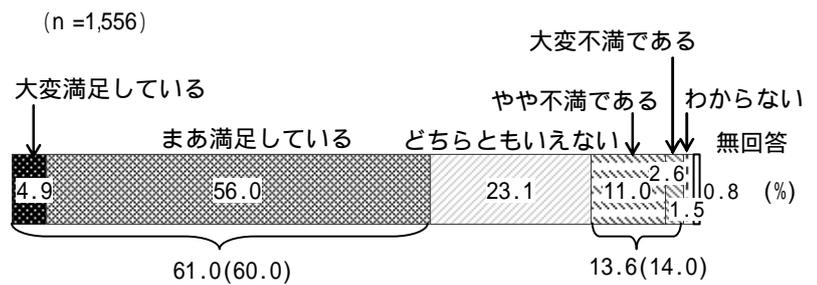
現在の生活に関する12個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』が最も高いのは、家庭内の夫婦・親子関係について（77.2%）で約8割となっている。以下、買い物物の便について（66.7%）、近所や職場での人間関係について（57.6%）、家庭内の夫婦・親子関係について（57.6%）、通勤・通学の便について（56.0%）と続く。一方、「やや不満である」と「大変不満である」を合わせて『不満である』の割合は、収入や預貯金など経済的な面について（37.5%）が約4割となっており、『不満である』の割合が『満足している』の割合を上回っている。



注) 下段の( )書きは、平成24年度の調査結果を示している。

## ( 8 ) 住生活全般の満足度

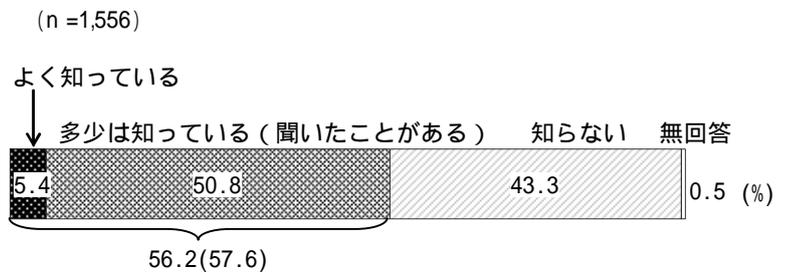
現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）に関する満足度を聞いたところ、「大変満足している」（4.9%）と「まあ満足している」（56.0%）を合わせた『満足している』（61.0%）は6割を超えている。一方、「やや不満である」（11.0%）と「大変不満である」（2.6%）を合わせた『不満である』（13.6%）は1割台半ばとなっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

## ( 9 ) 市民活動団体の活動の認知度

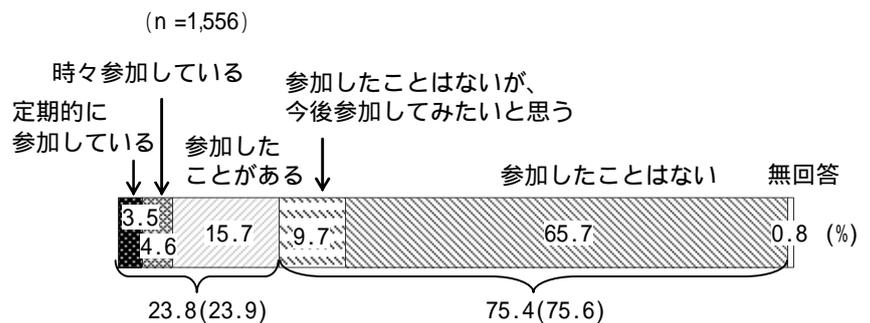
市民活動団体の活動の認知度を聞いたところ、「多少は知っている（聞いたことがある）」（50.8%）が5割と最も高く、これと「よく知っている」（5.4%）の2つを合わせた『知っている』（56.2%）は5割台半ばとなっている。一方、「知らない」（43.3%）は4割台半ばとなっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

## ( 10 ) 市民活動団体の活動への参加経験

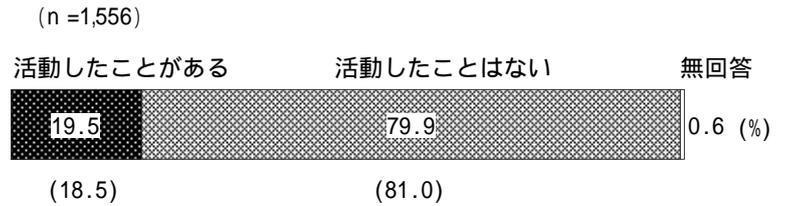
市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」（3.5%）と「時々参加している」（4.6%）、「参加したことがある」（15.7%）の3つを合わせた『参加している』（23.8%）は2割台半ばとなっている。一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」（9.7%）は約1割、「参加したことはない」（65.7%）は6割台半ばとなっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

## (11) ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるかを聞いたところ、「活動したことがある」(19.5%)は約2割となっている。一方、「活動したことはない」(79.9%)は約8割となっている。

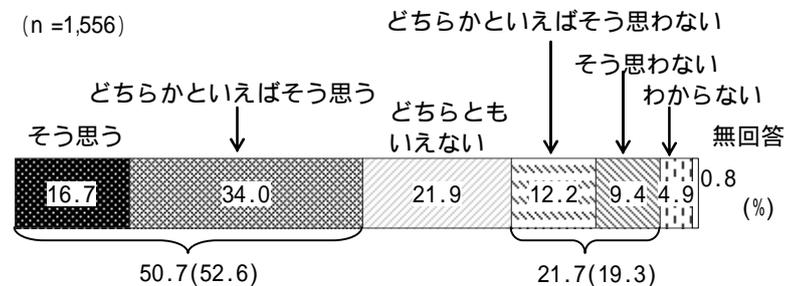


注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

## 3 健康について

### (1) 健康づくりに取り組むことができる環境

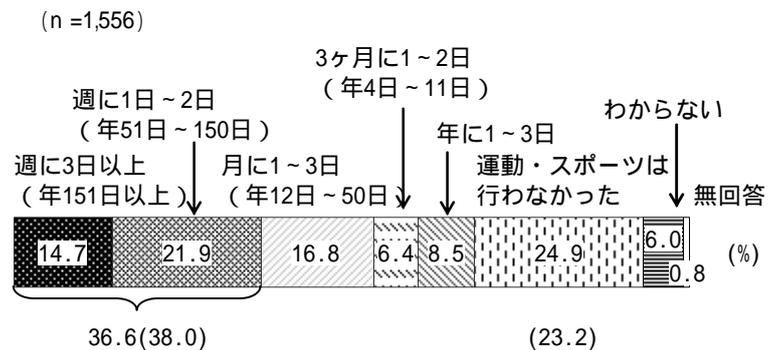
自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(16.7%)と「どちらかといえばそう思う」(34.0%)を合わせた『そう思う』(50.7%)は5割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.2%)と「そう思わない」(9.4%)を合わせた『そう思わない』(21.7%)は2割を超えている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

### (2) 健康づくりのための運動

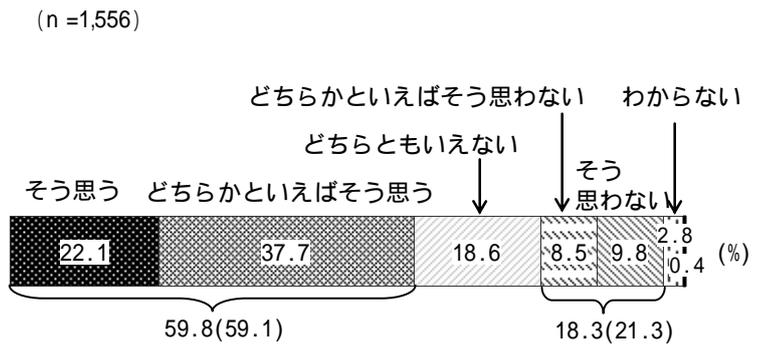
健康づくりなどのために1年間に何日くらい運動やスポーツを行ったかを聞いたところ、「週に3日以上(年151日以上)」(14.7%)、「週に1日~2日(年51日~150日)」(21.9%)を合わせた『健康づくりのために週1日以上運動した』(36.6%)は3割台半ばとなっている。一方、「運動・スポーツは行わなかった」(24.9%)は2割台半ばとなっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

### (3) 安心して受診できる医療体制

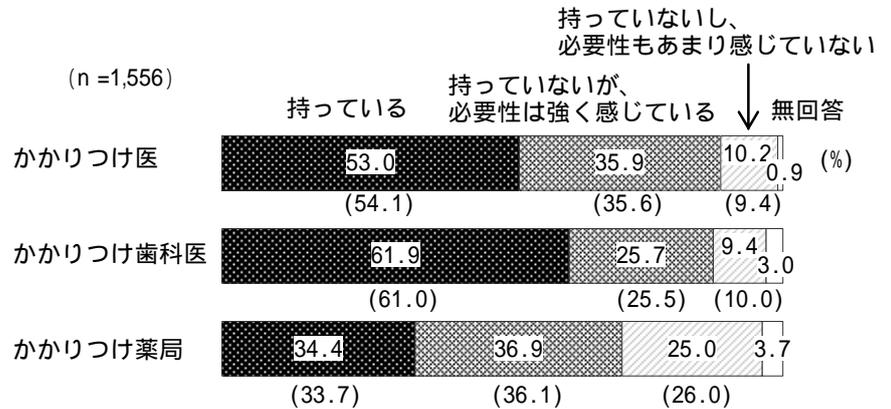
住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(22.1%)と「どちらかといえばそう思う」(37.7%)を合わせた『そう思う』(59.8%)は約6割である。一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.5%)と「そう思わない」(9.8%)を合わせた『そう思わない』(18.3%)は約2割となっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

### (4) かかりつけ医の有無

かかりつけの医師、歯科医、薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は歯科医(61.9%)で6割を超え、医師(53.0%)が5割台半ばであるが、薬局(34.4%)では3割台半ばである。また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は薬局(36.9%)と医師(35.9%)で3割台半ばとなっている。「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は薬局(25.0%)で2割台半ばとなっている。

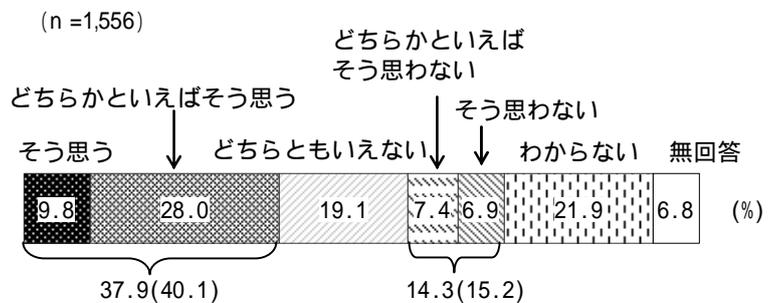


注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

## 4 子育てと福祉について

### (1) 安心して子育てできる環境

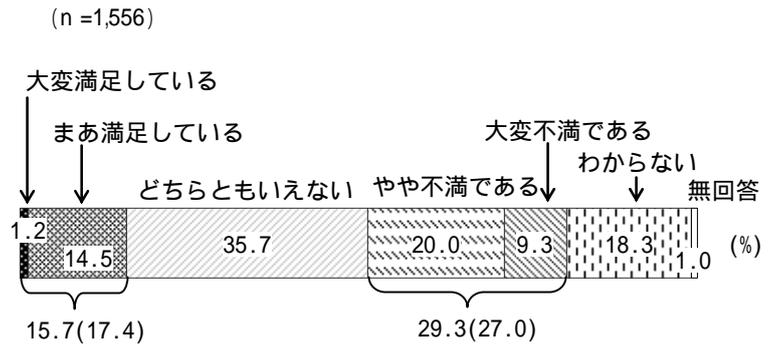
自分が安心して子育てできる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(9.8%)と「どちらかといえばそう思う」(28.0%)を合わせた『そう思う』(37.9%)は約4割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(7.4%)と「そう思わない」(6.9%)を合わせた『そう思わない』(14.3%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

## (2) お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策について

お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についてどう感じているか聞いたところ、「大変満足している」(1.2%)と「まあ満足している」(14.5%)を合わせた『満足している』(15.7%)が1割台半ばとなっている。一方、「やや不満である」(20.0%)と「大変不満である」(9.3%)を合わせた『不満である』(29.3%)は約3割となっている。

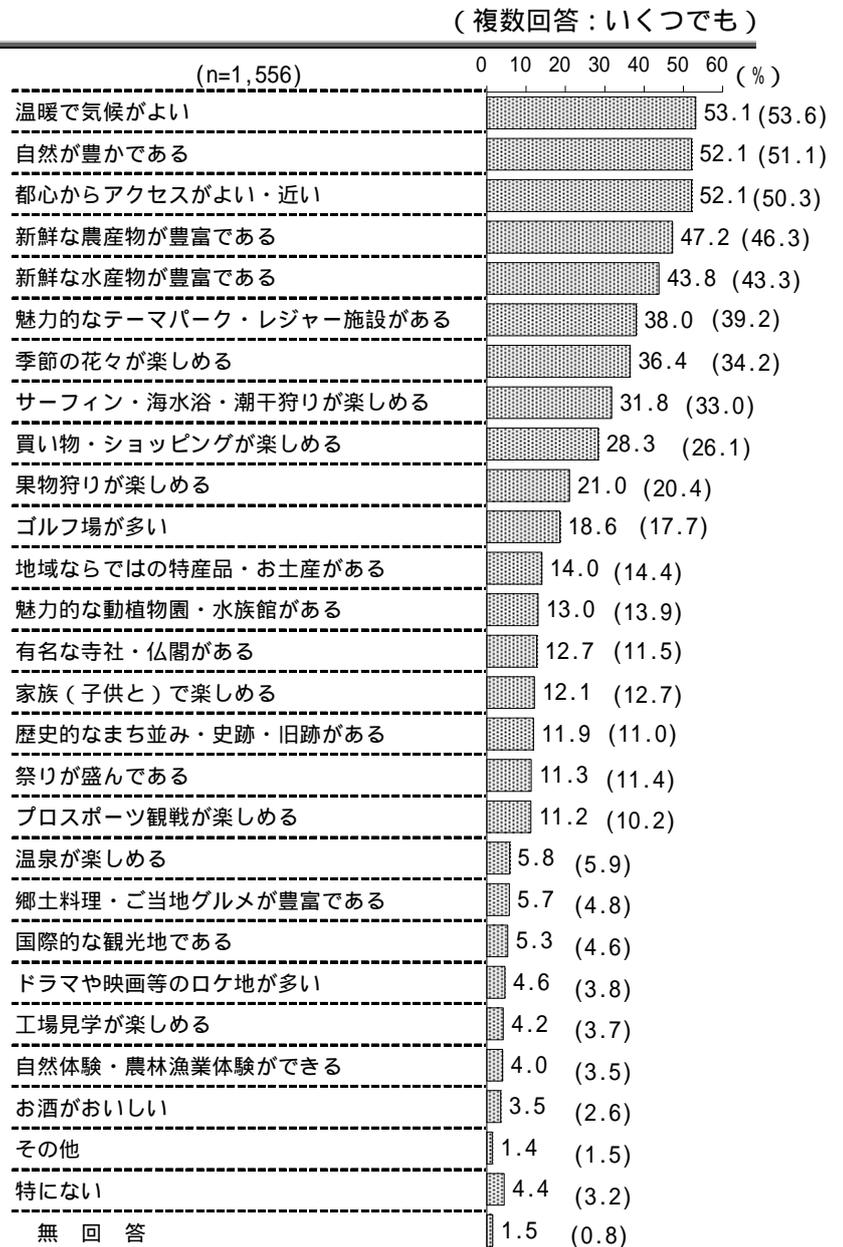


注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

## 5 観光について

### (1) 千葉県の魅力

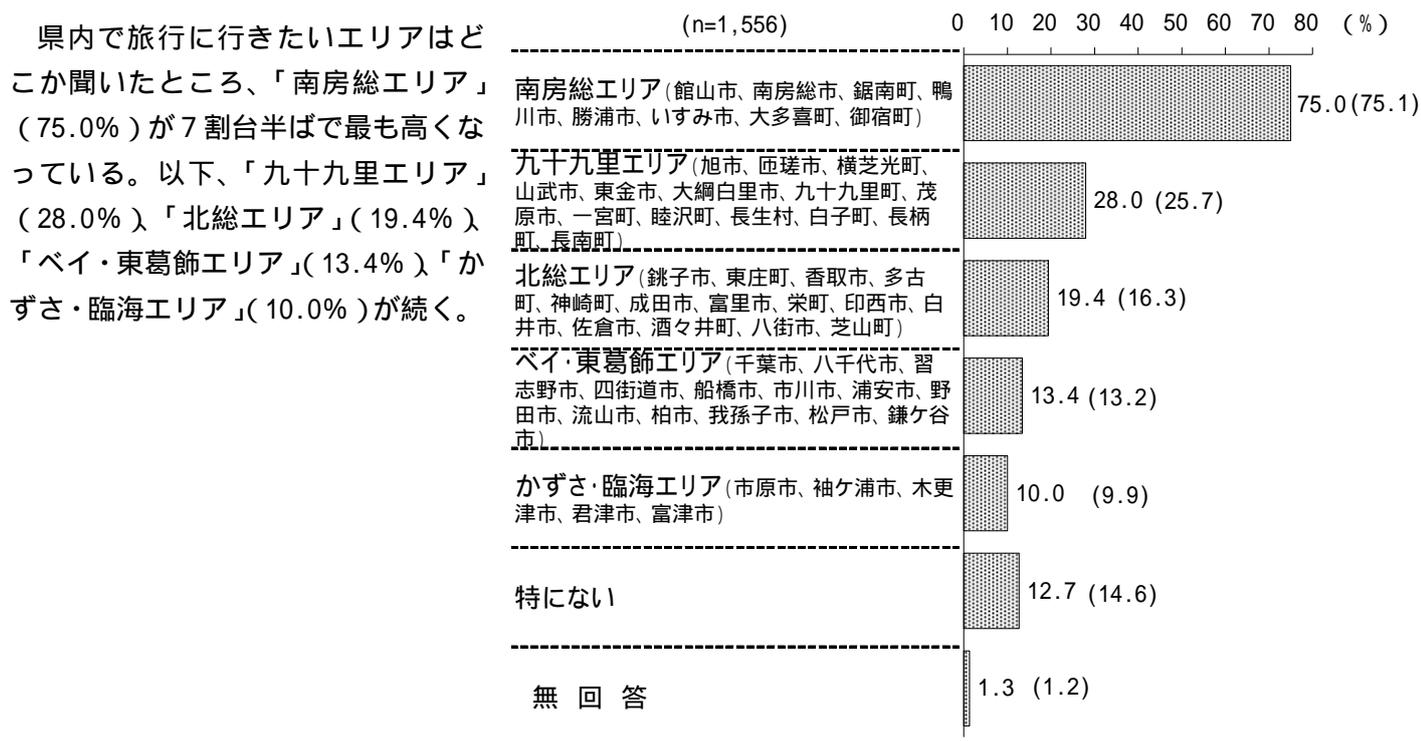
千葉県の魅力は何だと思うか聞いたところ、「温暖で気候がよい」(53.1%)が5割台半ばで最も高くなっている。以下、「自然が豊かである」、「都心からアクセスがよい・近い」(同率52.1%)、「新鮮な農産物が豊富である」(47.2%)、「新鮮な水産物が豊富である」(43.8%)が続く。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

## (2) 県内で旅行に行きたいエリア

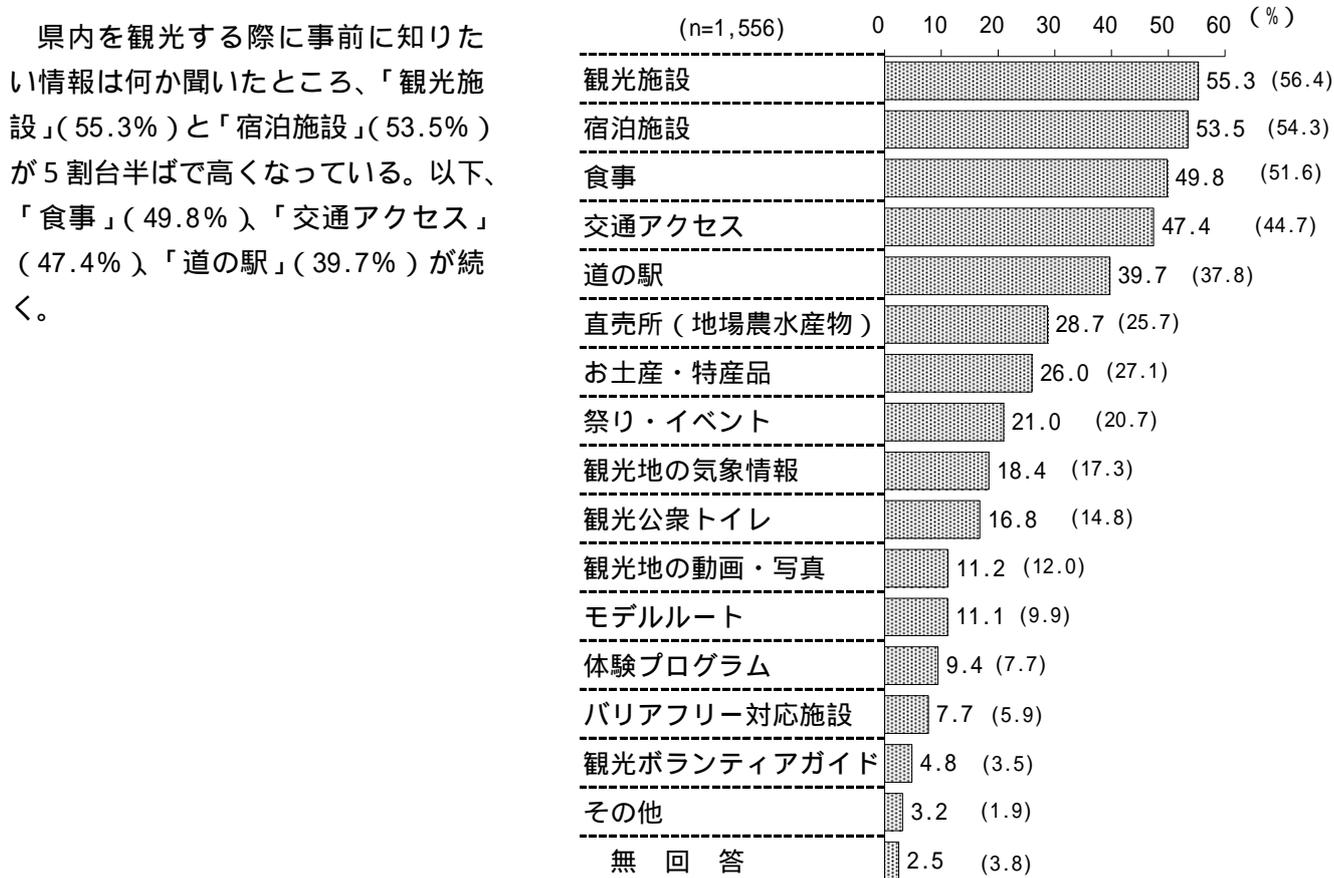
(複数回答:いくつかでも)



注) 下段の( )書きは、平成24年度の調査結果を示している。

## (3) 県内を観光する際に事前に知りたい情報

(複数回答:いくつかでも)

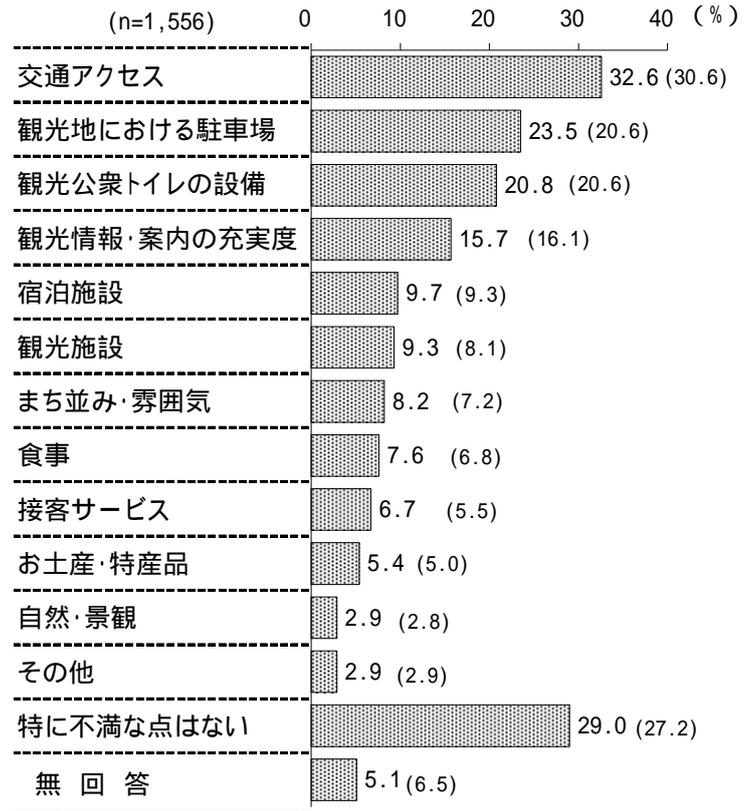


注) 下段の( )書きは、平成24年度の調査結果を示している。

(4) 県内を観光するときの不満

(複数回答：いくつでも)

県内を観光する際に不満を感じることを聞いたところ、「交通アクセス」(32.6%)が3割で最も高くなっている。以下、「観光地における駐車場」(23.5%)、「観光公衆トイレの設備」(20.8%)、「観光情報・案内の充実度」(15.7%)が続く。

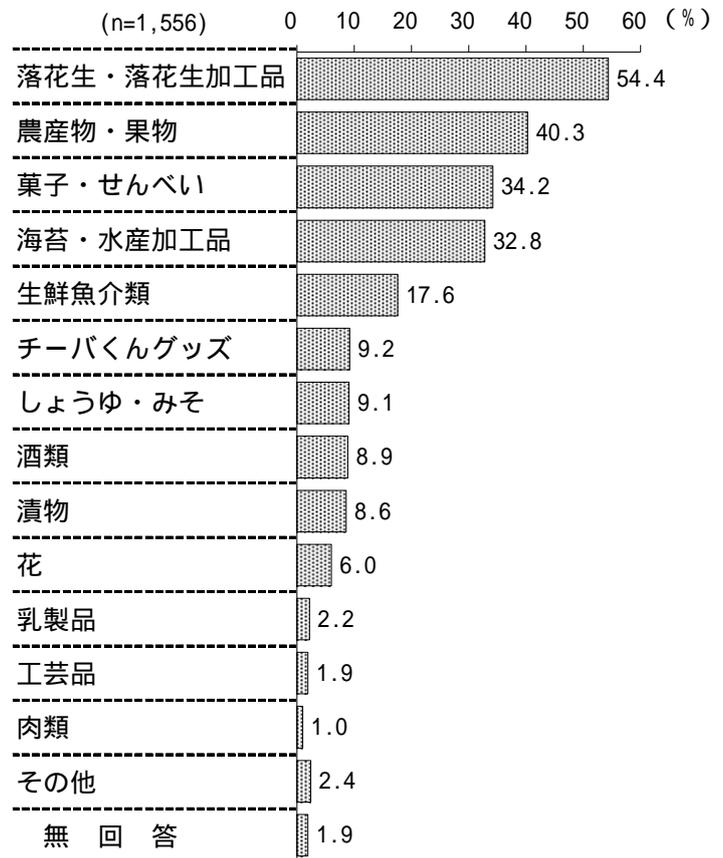


注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

(5) 県産品をお土産や贈答品として使う場合、贈るもの

(複数回答：3つまで)

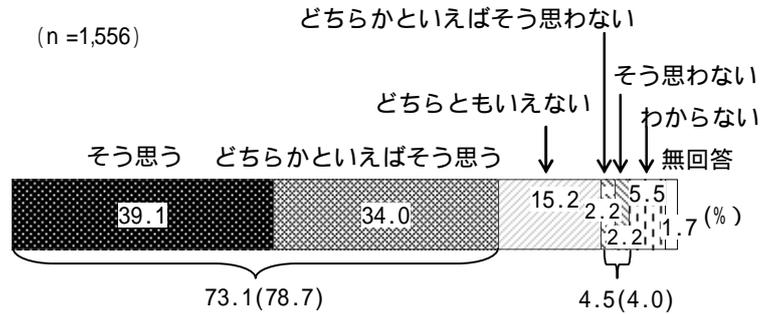
県産品をお土産や贈答品として使うものを聞いたところ、「落花生・落花生加工品」(54.4%)が5割台半ばで最も高くなっている。以下、「農産物・果物」(40.3%)、「菓子・せんべい」(34.2%)、「海苔・水産加工品」(32.8%)が続く。



## 6 千葉県産農林水産物について

### (1) 千葉県産農林水産物の購入意向

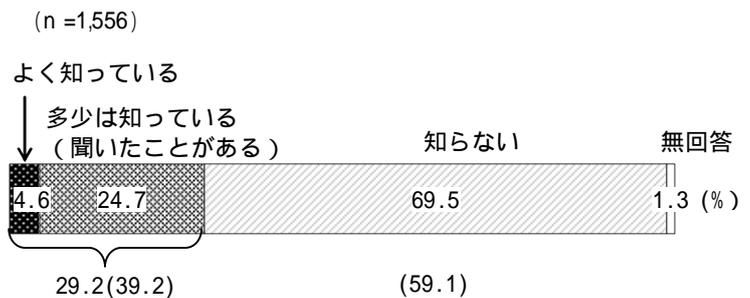
千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(39.1%)が約4割で最も高く、「どちらかといえばそう思う」(34.0%)は3割を超える。これらを合わせた『そう思う』(73.1%)は7割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(2.2%)と「そう思わない」(2.2%)を合わせた『そう思わない』(4.5%)は1割未満になっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成24年度の調査結果を示している。

### (2) 「ちばエコ農産物」の認知度

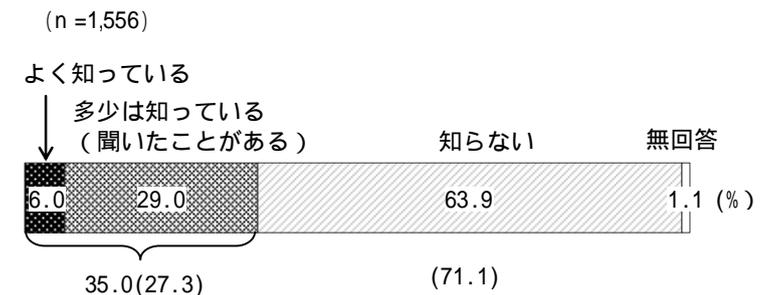
「ちばエコ農産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(4.6%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(24.7%)を合わせた『知っている』(29.2%)は約3割となっている。一方、「知らない」(69.5%)は約7割となっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成24年度の調査結果を示している。

### (3) 「千葉ブランド水産物」の認知度

「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(6.0%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(29.0%)を合わせた『知っている』(35.0%)は3割台半ばとなっている。一方、「知らない」(63.9%)は6割台半ばとなっている。

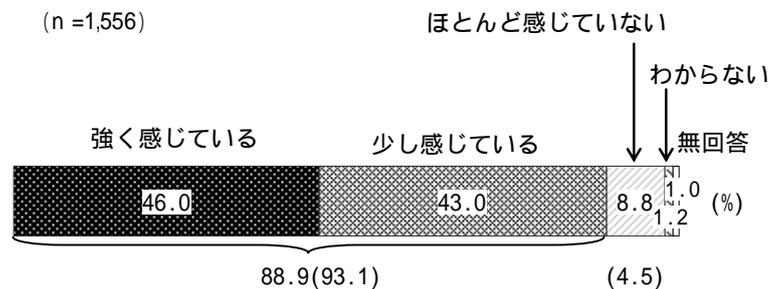


注) 下段の ( ) 書きは、平成24年度の調査結果を示している。

## 7 防災に関する取り組みについて

### (1) 大地震や風水害への不安

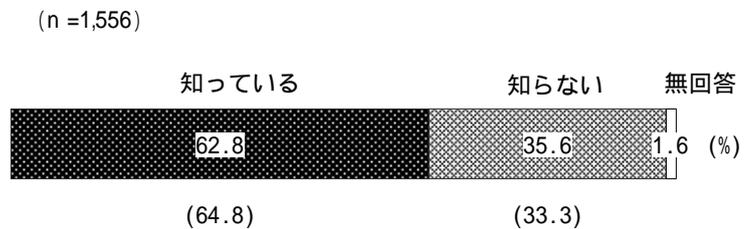
大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(46.0%)と「少し感じている」(43.0%)を合わせた『感じている』(88.9%)は約9割となっている。一方、「ほとんど感じていない」(8.8%)は約1割である。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

### (2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

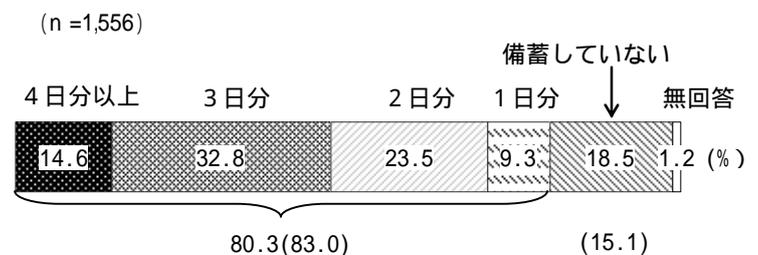
「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度を聞いたところ、「知っている」(62.8%)が6割を超えている。一方、「知らない」(35.6%)は3割台半ばとなっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

### (3) 飲料水や食料の備蓄状況

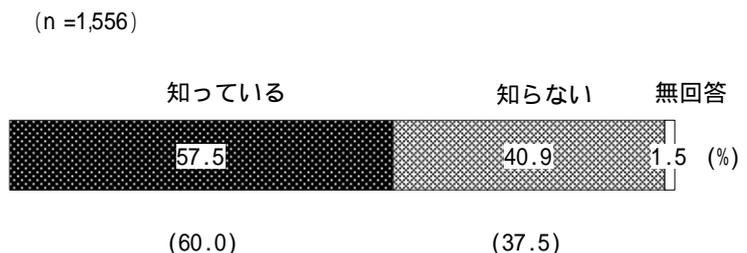
飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(32.8%)が3割を超え、「2日分」(23.5%)は2割台半ば、「4日分以上」(14.6%)は1割台半ば、「1日分」(9.3%)は約1割となっており、この4つを合わせた『備蓄している』(80.3%)は8割となっている。「備蓄していない」(18.5%)は約2割となっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

### (4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度を聞いたところ、「知っている」(57.5%)は約6割となっている。一方、「知らない」(40.9%)は4割となっている。

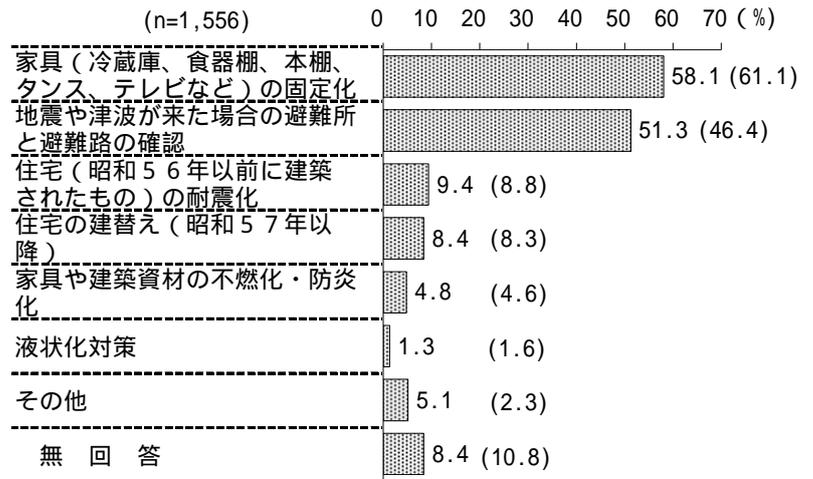


注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

( 5 ) 地震の被害を防ぐための対策

( 複数回答 : いくつでも )

地震の被害を防ぐための対策を聞いたところ、「家具(冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど)の固定化」(58.1%)が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」(51.3%)が5割を超え、「住宅(昭和56年以前に建築されたもの)の耐震化」(9.4%)と「住宅の建替え(昭和57年以降)」(8.4%)が約1割と続いている。

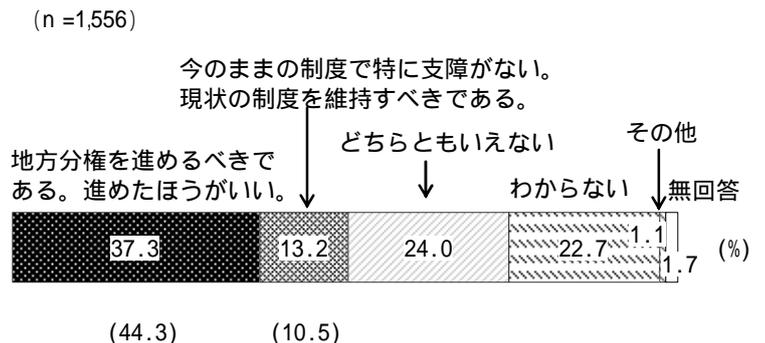


注) ( )書きは、平成24年度の調査結果を示している。

8 地方分権について

( 1 ) 地方分権を今後さらに進めていくべきか否か

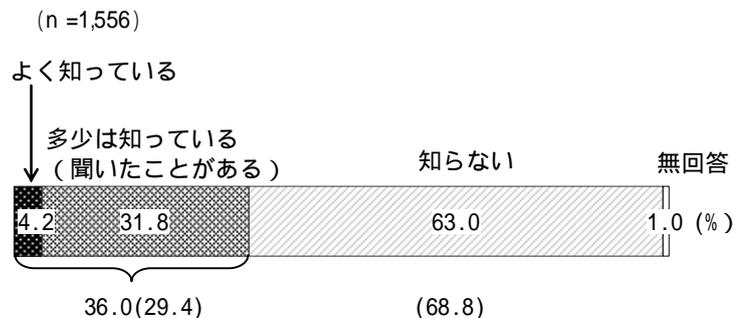
地方分権を今後さらに進めていくべきかどうかを聞いたところ、「地方分権を進めるべきである、進めたほうがいい」(37.3%)は約4割で、「今のままの制度で支障がない。現状の制度を維持すべきである」(13.2%)は1割台半ばとなっている。「どちらともいえない」(24.0%)は2割台半ば、「わからない」(22.7%)は2割を超えている。



注) 下段の ( )書きは、平成24年度の調査結果を示している。

( 2 ) 「地方分権」による基準変更の認知度

今まで国が定めていた保育所や老人ホームの施設の基準などを都道府県の条例で定められるようになったことを知ってるかを聞いたところ、「よく知っている」(4.2%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(31.8%)を合わせた『知っている』(36.0%)は3割台半ばとなっている。一方、「知らない」(63.0%)は6割台半ばである。

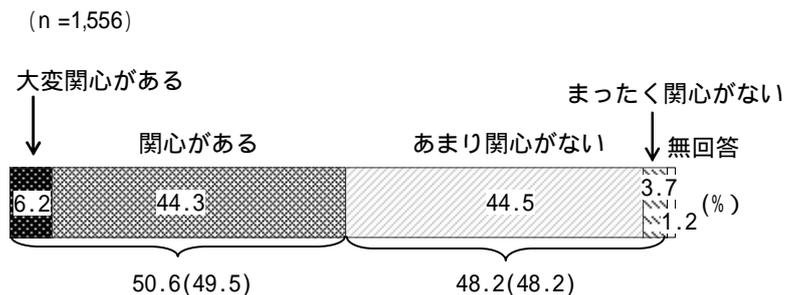


注) 下段の ( )書きは、平成24年度の調査結果を示している。

## 9 広報・広聴活動について

### (1) 県の施策や政策などについての関心度

県の施策や政策などについての関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(6.2%)と「関心がある」(44.3%)を合わせた『関心がある』(50.6%)は5割である。一方、「あまり関心がない」(44.5%)と「まったく関心がない」(3.7%)を合わせた『関心がない』(48.2%)も約5割となっている。

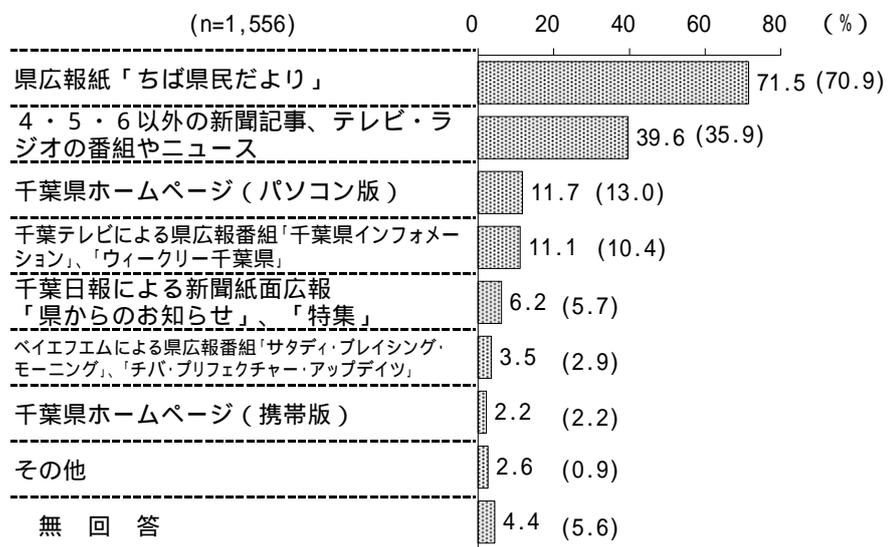


注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

### (2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答: いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(71.5%)が7割を超えて最も高く、以下、「4・5・6以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(39.6%)が約4割、「千葉県ホームページ(パソコン版)」(11.7%)、「千葉県テレビによる県広報番組『千葉県インフォメーション』」「ウィークリー千葉県」(11.1%)が1割台で続いている。

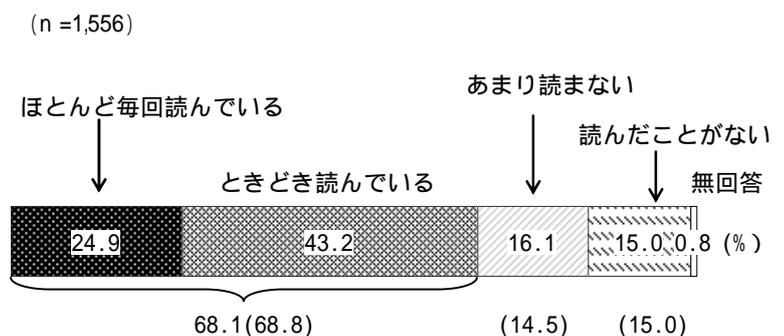


( ) 「4・5・6以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、4・5・6とは、『千葉日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」」「特集」』、『千葉県テレビによる県広報番組「千葉県インフォメーション」』『ウィークリー千葉県』、『ベイエフエムによる県広報番組「サタデー・プレイング・モーニング」』『チバ・プリフェクチャー・アップデート』を指す。

注) ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

### (3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

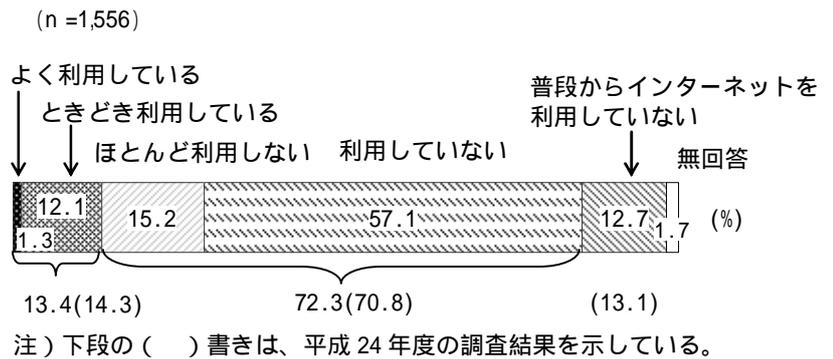
県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(24.9%)は2割台半ばで、「ときどき読んでいる」(43.2%)は4割台半ばで、これらを合わせた『読んでいる』(68.1%)は約7割となっている。一方、「あまり読まない」(16.1%)と「読んだことがない」(15.0%)はともに1割台半ばとなっている。



注) 下段の ( ) 書きは、平成 24 年度の調査結果を示している。

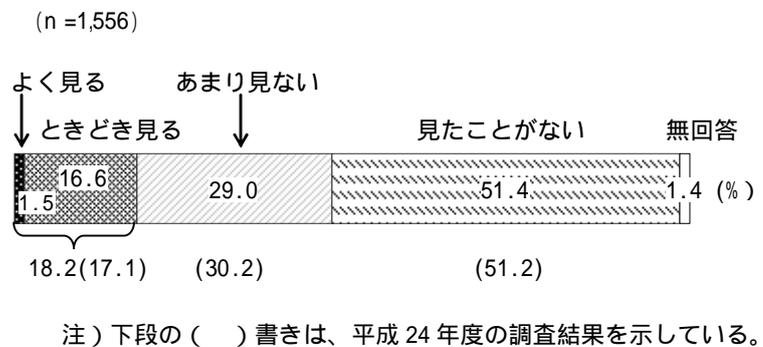
#### (4) 千葉県ホームページの利用頻度

千葉県ホームページの利用頻度を聞いたところ、「よく利用している」(1.3%)と「ときどき利用している」(12.1%)を合わせた『利用している』(13.4%)は1割台半ばとなっている。一方、「ほとんど利用しない」(15.2%)と「利用していない」(57.1%)を合わせた『利用していない』(72.3%)は7割を超えている。



#### (5) 県の広報番組の視聴状況

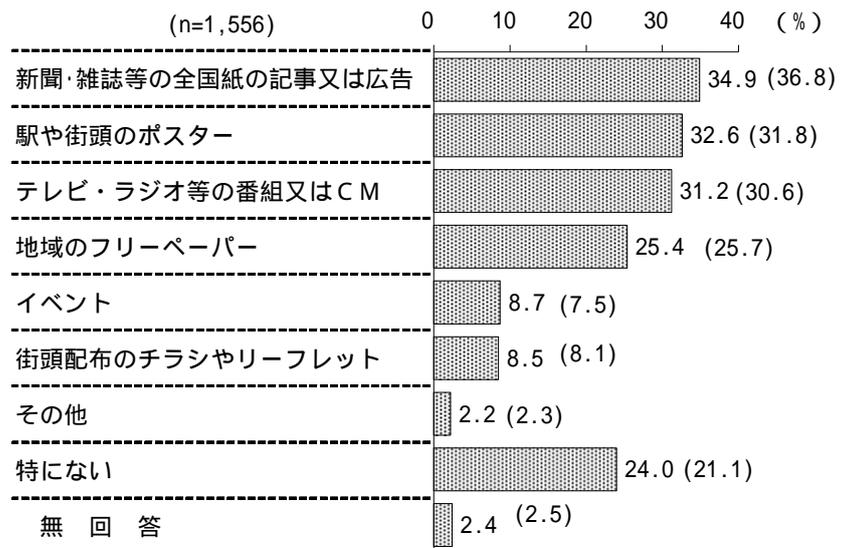
県の広報番組の視聴状況を聞いたところ、「よく見る」(1.5%)と「ときどき見る」(16.6%)を合わせた『見る』(18.2%)は約2割である。一方、「あまり見ない」(29.0%)は約3割で、「見たことがない」(51.4%)は5割を超えている。



#### (6) 県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況

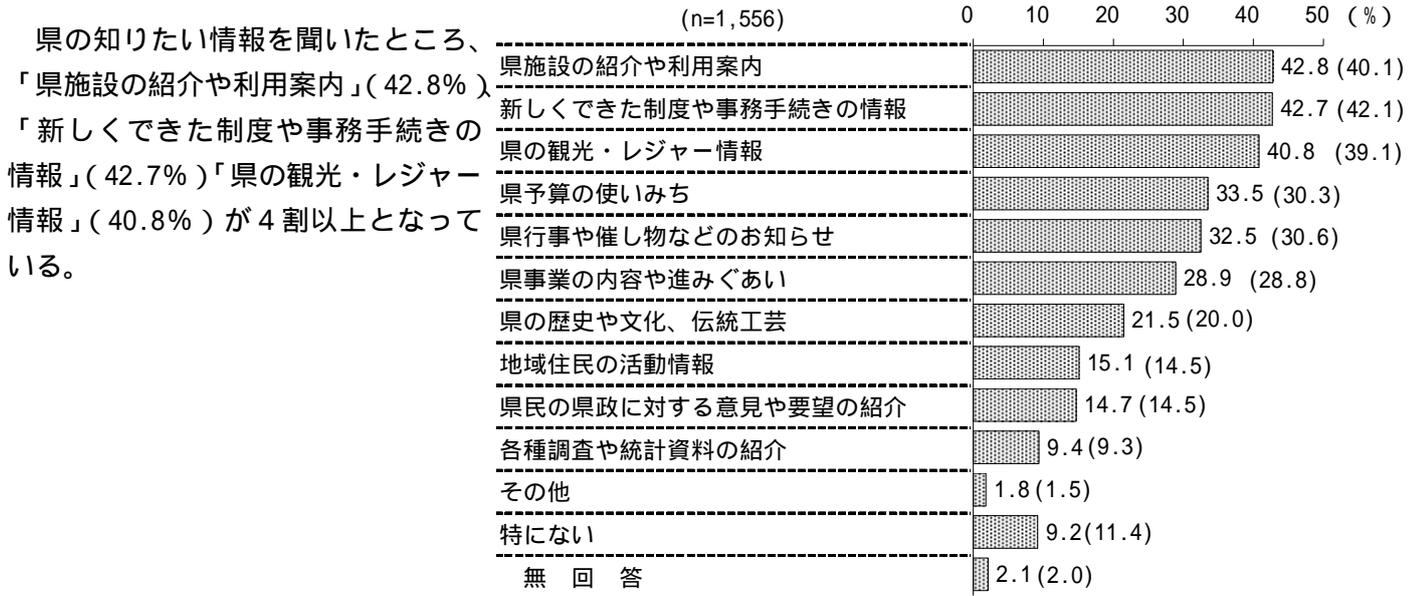
(複数回答: いくつでも)

県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況を聞いたところ、「新聞・雑誌等の全国誌の記事又は広告」(34.9%)が3割台半ばで最も高くなっている。以下、「駅や街頭のポスター」(32.6%)、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(31.2%)、「地域のフリーペーパー」(25.4%)が続いている。



(7) 県の知りたい情報

(複数回答：いくつでも)

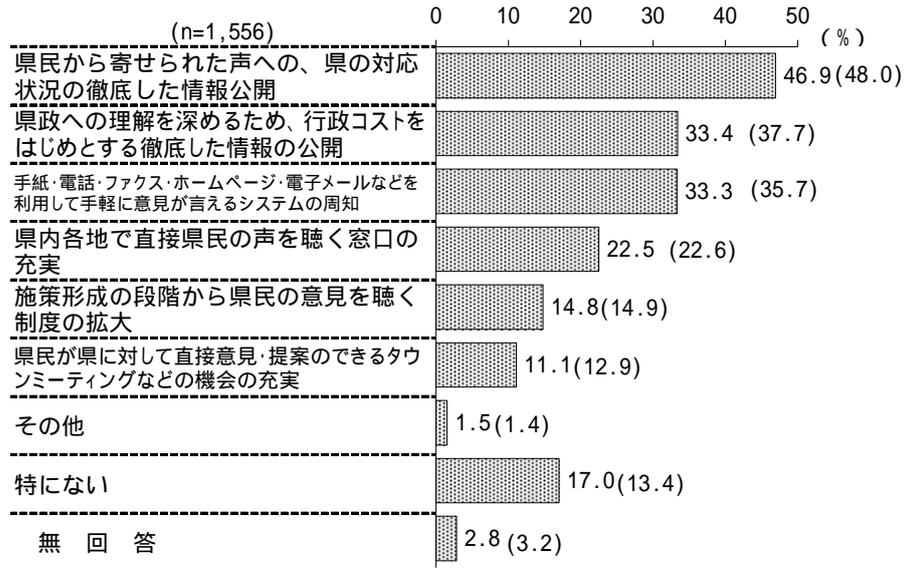


注) ( )書きは、平成24年度の調査結果を示している。

(8) 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと

(複数回答：3つまで)

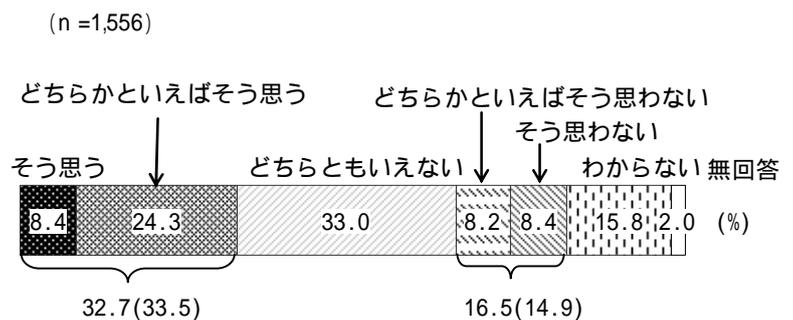
県政に対する意見を述べやすくするために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」(46.9%)が4割台半ばで最も高くなっている。以下、「県政への理解を深めるため、行政コストをはじめとする徹底した情報の公開」(33.4%)、「手紙・電話・ファクス・ホームページ・電子メールなどを利用して手軽に意見が言えるシステムの周知」(33.3%)などが続いている。



注) ( )書きは、平成24年度の調査結果を示している。

(9) 県政への意見の反映

自分の意見を県政に反映させたいと思うか聞いたところ、「そう思う」(8.4%)と「どちらかといえばそう思う」(24.3%)を合わせた『そう思う』(32.7%)は3割を超えている。一方、「そう思わない」(8.4%)と「どちらかといえばそう思わない」(8.2%)を合わせた『そう思わない』(16.5%)は1割台半ばである。



注) 下段の ( )書きは、平成24年度の調査結果を示している。

## 【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、338人から延べ387件の回答が寄せられた。記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形（合計38項目）で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

### 県政全般に関する要望

県民の声が届く千葉県であってほしいと思います。県民としても、千葉県に住んでいるからには、しっかり千葉の情報を学び、知っていくことを意識したいです。（女性、20～29歳、葛南地域）

### 高齢者福祉を充実する

母の介護、看取りをして、娘でもつらかったと思っています。子どもにはその負担をかけたくありません。仕事をしてはとて無理だと思えますし。在宅でも高齢者が一人で暮らしていけるサービス、福祉の充実を切に希望します。（女性、50～59歳、千葉地域）

### 道路を整備する

道路の渋滞緩和に対し、改善を急いでいただきたいです。（男性、20～29歳、千葉地域）

### 県政情報の発信や活動のPRについて

千葉県は都心に近い割に海もあって自然に恵まれています。私も含めて千葉県民自身があまり魅力に気付いていないように思います。千葉の魅力をずいぶん以前に比べればいろいろとアピールするようになったと感じておりますが、今後も発信していただけたらと思っております。（女性、30～39歳、葛南地域）

### 便利な交通網を整備する

南房総地区への電車の便を良くしてほしい。快速電車とは名ばかりで、ほとんどの駅に停車するので各駅と変わりがない。同じ県内でも都内へ行くより、時間がかかることがある。（女性、40～49歳、君津地域）

### 次世代を担う子どもの育成支援を充実する

公園がまわりにたくさんあるのですが、子供が遊んでいる姿をあまり見ません。少子化対策をお願いします。（女性、40～49歳、君津地域）

### 医療サービス体制を整備する

医療施設が最低限整っていないと不安を感じます。（女性、30～39歳、山武地域）

### 災害から県民を守る

やはり災害への対策をもっと強化していただきたいです。東日本大震災を教訓に、事前防止策から発生時の対応まで、もっと県民を巻き込んで取り組んでいくべきだと思います。（女性、20～29歳、葛南地域）

### 観光を振興する

千葉は、自然豊かな素晴らしい所です。もっと観光アピールをしたらよいと思います。南房総にも魅力的な観光地が増えるとよいのですが...。（女性、20～29歳、葛南地域）

### アクアラインについて

アクアラインの値下げは観光客の増加など、千葉経済に効果が出ていると思います。継続or定常化をお願いします。（男性、30～39歳、千葉地域）

### 雇用の場を広げる

お年寄りや障害をもつ方、シングルマザーの方が社会で働きやすい環境を作っていただきたいです。そうすれば千葉県が活性化すると思えますし、税金の収入も上がると思うので、今は先行投資の形で支援して頂けるとありがたく思います。（男性、30～39歳、葛南地域）

## 【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、158人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

世論調査がある事を今回初めて知りました。改めて千葉県の事を考える時間ができて良かったです。逆に千葉県民ですが、千葉を身近に感じられました。これからも何かあれば千葉県の事を親子で見たり、調べたりしたいと思います。（女性、30～39歳、千葉地域）

問43「県政への要望」3つまでにしぼって選択できません。残念です。  
（女性、40～49歳、葛南地域）

調査結果公表後の対策を知りたいですね。折りにふれて、何らかを長期間にわたっても結構ですから、公表して下さい。決しておざなりにしないで下さいね。  
（女性、65歳以上、東葛飾地域）

この調査が本当に県政に反映されるのかは分かりませんが、アンケートを取るだけで終わりにしてほしくはありません。アンケート調査をしっかりと県政に活かして頂き、明るい未来の千葉県へと導いて下さい。千葉県は本当に良い所です。千葉県民である事に誇りを感じます。  
（男性、30～39歳、葛南地域）

世論調査が送られて、改めて住みやすい町だということを感じられました。これからはもっと意識しながら、町への取り組み、子供へのしつけ等、行いたいと思います。  
（女性、40～49歳、君津地域）

質問が多く時間がかかる。もう少し分割して負担を減らしてみてもどうか。  
（女性、20～29歳、君津地域）

こういう世論調査は県民の素直な意見が聞けると思います。無作為でどんどん調査した方が良いと思います。（男性、60～64歳、葛南地域）

この調査を県の政策に必ず反映させて欲しいと思います。（男性、20～29歳、山武地域）

もっと簡略化したものでも構いませんので、こういったものをネットなどから「電子目安箱」的なもので意見を広く集めるのもひとつの方法だと思います（もうすでに実在するかもしれませんが...）。（男性、40～49歳、印旛地域）

自分自身、いかに県政に対して知らなかったか、よくわからせて頂きました。もう少し視野を広げ、関心を持って生活をさせて頂きたいと思わせて頂きました。  
（女性、60～64歳、長生地域）